

第93号

令和5年3月
発行

ボランティア・協働情報紙 ～まなびとボランティアをサポートする～

まなぼら



Contents

特集

子どもと本

元気人

こども科学研究所 電腦工作部 家本 英明 さん

防府市生涯学習課のイチオシ

- みんなでまちをパトロール！合同補導巡視
- 報告♪ほうふ幸せます人材バンク

防府市社会福祉協議会のイチオシ

- 市民手話講習会 始まりました
- ボランティアコーナー

防府市市民活動支援センターのイチオシ

- 団体運営お悩み座談会『助成金の申請』を開催しました！

子どもと本

4月23日は、『子ども読書の日』です。子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、平成13年に定められました。

防府市内でも、子どもと本や読書に関わるさまざまな取組が行われています。今号では、その取組とそれに携わる方々のあたたかい思いをご紹介します。

ファースト絵本 『赤ちゃん文庫』事業



市社会福祉協議会では、市健康増進課と連携し、母子保健推進員（以下、母推さん）のご協力をいただいて、市内で出生した新生児とその保護者にお祝いとして絵本を贈っています。これは、未来を担う子どもの健やかな成長を願い、親子の心のふれあいを大切にしてもらうために行っている『赤ちゃん文庫』という事業です。

実際に絵本を手渡して下さっている『防府市母子保健推進協議会』会長の肥田さんは、「初めて訪問する時は、ドキドキします。でも、市社会福祉協議会からのプレゼントの絵本をお渡ししますと言うと、訪問しやすくなります。絵本を受け取ったお母さんは、みなさん笑顔で、とても喜んでくださいます。この絵本は、赤ちゃんが一番最初に出会う絵本、ファースト絵本です。また、第1子を出産したお母さんは、母推さんの訪問が地域とのファーストコンタクトになるのではないかと思います。こうしてつながっていくのですね」と訪問してこそわかる気持ちをお話してくださいました。

実際に絵本を受け取った新米ママMさんは、「絵本をいただいて嬉しかったです。生後3ヶ月ですが、いただいてすぐに読み聞かせました」と話してくださいました。

赤ちゃん文庫は、市社会福祉協議会に寄せられた善意の寄付金と赤い羽根共同募金の配分金で購入しています。母子の健やかな成長とともに家庭と地域社会をつなぐ大切な役割も担っています。絵本を通して親子の触れ合いを深めていただきたいと思います。

人間にとって“言葉”は大切！優しい言葉を家に送り込んでくれるのが絵本

大田さんは、お孫さんが生まれたのをきっかけに、今日まで約37年間、長きに渡り本に関する活動に携わってこられました。昭和63年には、時代の流れとともに人と人とのつながりが希薄化する中、親子や母親同士の交流を図り、絵本の楽しさを知ってもらうために、読み聞かせ活動などを行う『かすが文庫』を立ち上げられました。

「家で絵本を読んでもらっている子はすぐにわかる」大田さんは、そう話されます。大田さんご自身も幼い頃、絵本を読んでもくれたお父さんの膝の上の感触をよく覚えているのだそうです。子どもは絵本を読んでもらいながら親の温もりを知るため、親子の信頼関係ができ、“遊ぶときは遊ぶ、話を聴くときは聴く”というメリハリが自然と身につきます。

絵本は図書館で借りるのもよいですが、何冊かは必ず買って家に置いておいてほしいとのこと。「破る・投げる・舐める…その中で子どもは成長する！」と大田さんは楽しそうに話されます。

「0歳から読み聞かせをしてほしい！」という強い思いのもと、子どもたちから元気をもらいながら活動をしてこられた大田さんは、現在92歳。今後も絵本の大切さを伝えていかれます。



大田 和子さん

本を楽しもう！あんな本こんな本

市生涯学習課では『聞いて得するふるさと講座』（通称：出前講座）を行っています。この講座は、市民のみなさんが聞きたい内容をメニューから選んでいただき、市職員などが講師となってみなさんのところへ出向き、市の取組や制度についてお話しするものです。



1月12日（木）、勝間公民館で出前講座を利用して家庭教育学級が開催され、『テーマで探そう、あんな本こんな本』という講座名で、防府図書館の職員2名が、子どもの読書についての講義を行いました。

講座では、本を楽しむこと、子どもの興味を引き出すこと、継続して読み続けるための工夫、電子書籍との向き合い方など、さまざまな話題が取り上げられました。また、本を置いて読むための書見台などの読書お助けグッズの紹介も行われました。

さらに、おすすめの絵本についてのお話では、『おおかみと七ひきのこやぎ』『三びきのこぶた』『ぐりとぐら』などが紹介され、小学校低学年向きの図書では、那須正幹さんの『それいけズッコケ三人組』なども紹介されました。ほかにもさまざまな本が紹介され、どの本を選べばよいのか分からない方にとっては耳寄りな情報でした。

参加者からは「子どもにどんな本を読ませていいかわからなかったので参考になった」「おすすめの本の中に小学校の頃読んだことのある本があって懐かしかった」「最近、図書館に行くことが少なくなっていました、今度子どもを連れて行きたいと思います」などの声が寄せられました。

参加者にとって読書の魅力を再認識する良いきっかけになったようです。

『聞いて得するふるさと講座』は、市内に在住、在勤、在学している10人以上の団体・グループで利用できます。興味のある方は、市生涯学習課までご連絡ください（お問合せは7P参照）。

いつか悩んだ時に本に助けられる子が増えてほしい

新田さんは、『学校図書ボランティアネット・防府』の代表として、市内の小学校で子どもたちの読書活動の推進と環境整備を補助する図書ボランティアの活動支援を行われています。本に関する研修を開いたり、情報交換をしたりして、各学校での活動に活かされています。その活動も10年目となり、『令和4年度山口県子ども読書活動団体表彰』を受けられました。

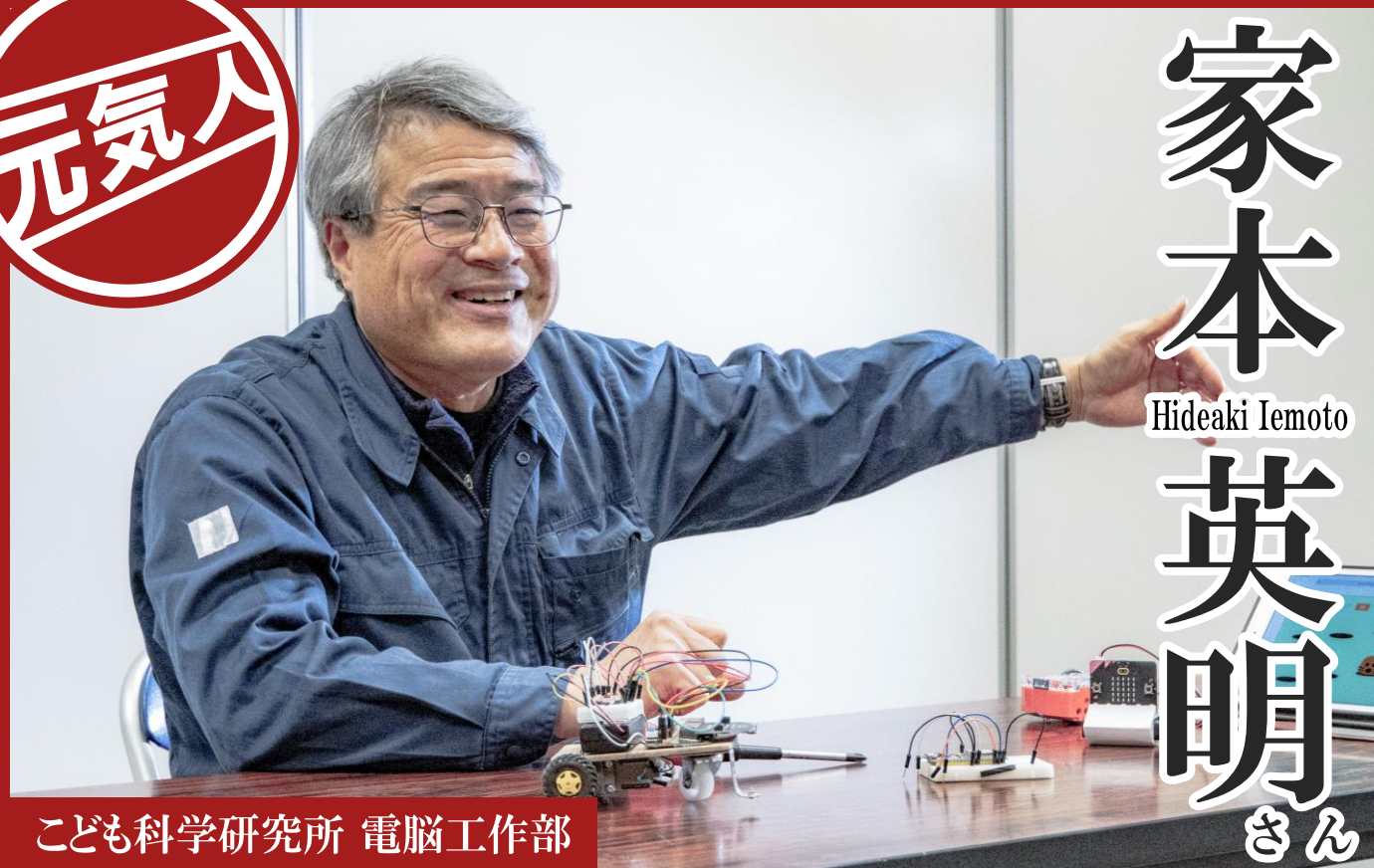


新田 康子さん

新田さんが図書ボランティアとしての活動を始めるきっかけとなったのは、「学校の図書室には読みたい本がない」という本が好きなお子さんの言葉でした。当時古い本が並び、暗い雰囲気だった学校図書館を子どもたちが行きたくするような図書館にしたいという思いで、他校の図書ボランティアのお話も参考にしながら活動を進められました。

新田さんが活動されている佐波小学校の『学校図書館ボランティアこんべいとう』は週3回程度集まって、読み聞かせや本の修繕、季節に合わせた掲示物作りなどをされています。メンバーは、現役の保護者の方はもちろん、お子さんが卒業してからも活動を続けられている方もおられ、楽しく活動されています。

最近では、さまざまな手段で情報を得ることができますが、本は文字と絵という少ない情報から読者が自由に想像を広げ読み進める楽しさがあります。1人でも多くの子どもたちに本を読む楽しさに気付いてもらえるよう、今後も本との出会いをつくっていかれます。



家本 英明 さん

Hideaki Iemoto

こども科学研究所 電脳工作部

『こども科学研究所 電脳工作部』(以下、研究所)は、コンピュータやタブレット端末、ロボット模型や電子部品、各種装置を使って“やってみたいことをやってみる”場所として、令和4年4月に設立されました。学校や塾のように、先生が一方的に教えてくれるわけではなく、自分で考え、調べ、わからなければ仲間に見つけてアドバイスを受けながら自分のカタチにしていくことを目的としています。

研究所を立ち上げるきっかけとなったのは、アイルランド発祥で7~17歳対象の非営利プログラミング道場である『CoderDojo』との出会いだと家本さんは話されます。この道場は、子どもたちが主体的にやりたいことを見つけてプログラミングを行い、アイデアを具現化し想像する場所で、家本さんはこの道場を参考に研究所を立ち上げられました。

家本さんは、工業高校と総合支援学校で34年間教員をされていました。幼い頃からものづくりが好きで、廃品回収で捨てられたラジオをもらって帰って分解するほど機械いじりが好きだったそうです。

研究所では現在、12名の小学生が参加して月に2回活動を行っています。学校でプログラミングの授業が始まった影響でプログラミングに興味を持った子やコンピュータを使って遊びたい子、スクラッチをやりたい子などやりたいことはさまざま、パソコンやタブレットなど使う道具は各自持参して参加します。子どもたちはその日にやる

ことを初めにみんなの前で発表して、計画を伝えます。そして、最後にやる予定だったことがどのくらいできたかを発表します。そうすることで、自分が立てた計画の何割ができたのか、どこで時間がかかったかなどを振り返る機会をつくっているそうです。「将来子どもたちがどういった道に進むとしてもコミュニケーションが必要になる。地域活動が少なくなった最近、年齢の違う人と話す機会も減っているので、研究所がそういったきっかけの場になるといいと思っている。子どもたちにはものづくりを通してみんなでつくり上げることの楽しさを知り、興味・関心を広げてほしい」と家本さんは話されます。子どもたちがお互いに刺激し合える場として、研究所の環境を考えられています。

「いくつになっても子どものまま、ものづくりが好きなのが今の原動力です」と話される家本さん。今後の活動が期待されます。

【問合せ】こども科学研究所 電脳工作部
E-Mail kkodomok22@gmail.com



ホームページ



青少年の健全育成、非行防止活動

みんなでまちをパトロール！合同補導巡視

毎月第3金曜日の19:00から、保護司会、防府警察署、地区の補導員、青少年育成センターなど十数人のメンバーで合同補導巡視を行っています。巡視を行う場所は、防府駅周辺の店舗です。非行をする子どもの姿はほとんど見られませんが、子どもたちだけで遊んでいるような場合は、声を掛けて注意を促します。コロナなどの影響で、店舗に出入りする子どもの数がやや少ない印象を受けますが、非行防止の一助となればと思い、活動しています。

市内では、この合同補導巡視以外にも、市長から委嘱を受けた152名の青少年補導員が地域の巡視活動などを行っています。青少年補導員は、青少年の非行防止・健全育成を目的として日々活動しています。

現在、非行や犯罪はネット上でも見られるようになり、視覚的に見えづらくなっているというのが実情ですが、今後も非行や犯罪のない安全で明るい社会づくりを目指して活動をしていきます。



報告♪ ほうふ幸せます人材バンク

指導者バンク登録講師 チームサイエンスラボ 『科学実験・工作』

1月28日(土)、生涯学習課の主催で『ボランティア養成講座』が開催されました。講師は、『指導者バンク』に団体登録されている『チームサイエンスラボ』のメンバーである国府中学校科学部顧問の藤村先生と9名の生徒のみなさんと、地域で子どもたちと関わっているボランティアの方々など17名が受講されました。

はじめに、 -196°C の液体窒素でバラの花やテニスボールを凍らせたり、ビニール袋の中の酸素や二酸化炭素を液体や固体に変化させたりする実験をされ、参加者は興味津々で見つめていました。その他、『ビー玉ころころ』『色水遊び』『浮沈子』『折り染め』などの実験や工作をしました。盛りだくさんの内容で、生徒たちは、材料を配ったり、そばに行っただけで教えたりと忙しく動き回っていました。

受講者からは「中学生が一生懸命教えてくれるのはうれしく、新鮮な体験でした」「習ったことを参考に自分たちの教室でも作ってみたい」などの声が聞かれ、終了後も生徒に質問している方が何人もおられました。

生徒の一人は「教えることには慣れていなくて不安だったけど、ちゃんと伝えられてよかったです。子どもさんから大人の方までみんなに楽しんでもらえてうれしかったです」と、笑顔で話してくれました。





市民手話講習会 始まりました

2月1日(水)、手話に関心がある方や基本を学びたい方を対象に、市民手話講習会〈入門編〉を開講しました。講座は昼の部に加え、日中通勤している方や通学している方も参加できるように夜の部も開設しています。テレビドラマの影響か、申込みの問合せも多く、またたく間に募集定員まで達しました。

昼の部の講師は、『防府手話同好会』(以下、同好会)と『防府市聴覚障害者福祉会』(以下、聴障会)、夜の部の講師は、『防府手話サークル梅の会』(以下、梅の会)と聴障会が務めています。

講習会は、全6回、1回目は「身振り、挨拶、名前の紹介」、2回目は「数字を使って話しましょう」、3回目は「家族を紹介しましょう」、4回目は「趣味、仕事について話しましょう」、5回目は「あなたの家を紹介しましょう」、6回目は「まとめ」という内容になっています。



▲昼の部



▲夜の部

1回目は、受講生が初対面なので、手話をすることに恥ずかしさや緊張する様子が見られました。しかし、時間が経つにつれ少しずつ慣れて、自信を持って取組まれていました。

参加者の方からは「孫とのコミュニケーションを深める為に参加したが、新しいことを始めると大変だった。手話が伝わると嬉しいと思う」「東京オリンピックの開会式で手話をされている方の表情の豊かさに憧れ、自分の周囲にも手話をされる方がいたのでやってみようと思った。

講師の方々には「ゆっくり教えてくださいるので分かりやすく、少人数制で聞きたいことも聞きやすい」とお話ししてくださいました。

講習会参加後は、4月から始まる市障害福祉課主催の『手話奉仕員養成講座』、同好会や梅の会への参加など、受講者の次なるステップへつながることを期待しています。手話に興味を持たれた方は、ぜひ市社会福祉協議会までご相談ください。

ボランティアコーナー

ボランティアコーナーでは、ボランティアアドバイザーによる相談対応や情報提供を随時行っています！ご来所の際は、事前に市社会福祉協議会へ連絡の上お越しください。

場所：市文化福祉会館 2階 16号 問合せ：市社会福祉協議会 (7P 参照)



団体運営お悩み座談会『助成金の申請』を開催しました！

市市民活動支援センターでは、市民活動団体の運営に役立つ講座の開催や運営に関する相談対応を行っています。

中でも多くご相談をいただくのが、“資金調達”について。「助成金を申請してみたいので手順を教えてください」「活動に必要な物品を購入するための資金を捻出する方法はないか」…。反対に、助成団体などから、「助成金を地域の課題解決に役立ててくれる団体を推薦してほしい」というご相談を受けることもあります。



今回は、『公益財団法人山口きらめき財団』助成金アドバイザーの森永小波さんをお講師にお迎えし、助成金申請の基本についてお話ししていただきました。

参加団体は、座談会形式ということもあり気軽にお話しすることができたようで、講師へ質問を投げかけたり、日々のお悩みを共有したりする中で、他団体の活動を知る機会にもなりました。また、この座談会に参加したことで、今後は直接財団へ相談できるような関係づくりもできたようです。

「助成金を申請してみたい」と思ったら・・・

まずは、次のようなことを考えてみてください。

★本当に助成金が必要なのか

単に「資金が必要」ではなく、「何にいくら必要」なのかを整理してみましょう。

★“助成金ありき”で計画を立てていないか

「助成金がとれたら実施する」ではなく、仮に助成金がとれなかったとしても実施する事業なのかどうかを改めて考えてみましょう。

★課題解決につながる事業なのか

助成する側にとっての助成金とは、自分たち（助成する側）に代わって自分たちのミッション（目的や使命）を達成してもらうための投資だと言われます。つまり、団体の活動そのものというよりは、その活動の先にあるものへの支援ということになります。単に、「活動費の不足している部分を補填してくれるお金」、「団体の運営を助けてくれるお金」と捉えるのではなく、それをどのように活用し、地域課題に取り組んでいくかという視点を持ちましょう。

★助成金を活用したその先の計画は立てられているか

助成金は毎年続けてもらえるわけではありません。助成金がとれた年度のみ“やって終わり”とならないよう、どのように次の事業につなげていくのか、長期的な視点で考えましょう。

これらのことを考えた上で、対象となる助成を探してみましょう♪

募集中の助成金情報は、『山口県民活動スーパーネット』（右記二次元コード）「助成を探す」より一覧を参照することができます。まずは自団体の活動分野で検索してみてください♪



information

時 時間 場 場所 内 内容 対 対象 人 定員 ¥ 参加費 持 持参物 申 申込み 問 問合せ

3 / 18 (土) 市民活動団体交流会


時 10:00~12:00
場 市市民活動支援センター 会議室
内 他団体との交流・情報交換を通して自団体の活動を深掘りしよう！
 講師：特定非営利活動法人市民プロデュース 理事長 平田 隆之 さん
対 市民活動団体 **人** 10 団体
¥ 無料 **申** 3月17日(金)まで
問 市市民活動支援センター

3 / 23 (木) ボランティア入門講座 ~踏み出そう！ボランティア活動へ~

時 13:30~15:00
場 市文化福祉会館 3階9号・4号
内 ①講義
 講師：(株)ライフスタイル研究所 代表取締役社長 船崎 美智子 さん
 ②ボランティア交流会
 実際にボランティア活動をされている方と交流しよう
対 ボランティア活動に関心のある方
人 15名 **¥** 無料 **申** 3月16日(木)まで
問 市社会福祉協議会

3 / 26 (日) 防府市自発的活動支援事業助成イベント ジェルキャンドルワークショップ ボランティア募集!

時 13:00~17:00
場 向島公民館
内 配慮が必要なお子さん(未就学児から高校生まで)のサポート、テーブルゲームコーナーでの見守り、会場設営など
人 5~10名
申 右記二次元バーコードより
問 発達ゆっくりに子どもをお持ちのお母さんたちの会 えじたま 090-5375-9136 (内田)



4 / 27 (木) 音訳ボランティア講習会 全21回 令和6年3月まで2回程度の開催

時 10:30~12:10
場 市文化福祉会館 3階5号
内 音訳の方法についての講習
対 音訳ボランティア活動に関心のある方
人 10名(先着順)
申 4月20日(木)まで
問 市社会福祉協議会

令和5年度 ユネスコ英会話教室 こども英会話教室 毎週土曜日

時 A 低学年クラス 13:30~
 B 高学年クラス 14:30~
場 市文化福祉会館
内 英語に親しみ楽しむ
対 小学生 **人** 各10名
¥ 2,500円/月
 ユネスコ会費(要入会)年会費親子で3,500円
申 防府ユネスコ協会事務局
問 TEL (0835) 26-6851 (月・木)

令和5年度 防府市子ども会 「ジュニアリーダーズクラブ」会員募集

内 野外活動、交歓会、研修会、ボランティア活動で、いろいろな学校のお友だちができます。
対 中学生・高校生
申 防府市子ども会育成連絡協議会事務局
問 TEL (0835) 26-6852 (月・水・金)

編 集 後 記

最近、伯父が自費出版した小説を見る機会があったのですが、人物関係図が複雑&マニアックすぎて、本編前に“そっ閉じ”しました。みなさん、まなぼらは“そっ閉じ”せずに読んでくださいね！(N)



『まなぼら』は、3機関が協働で編集している情報紙です。発行月は6月・9月・12月・3月です。

健康と気分転換を兼ねてお昼休みに駆け足をしています。毛利氏庭園まで往復30分ほどですが、週1回が続いています。一人ではできません。同僚と声を掛け合って走っています。(K)

コロナの5類移行が決まりましたね。マスク生活に慣れ、マスクを取る予定のない日は化粧もデキトー、肌の手入れや小顔マッサージもサボりがちですが、そろそろちゃんとしたと思います(笑)(H)



防府市教育委員会教育部生涯学習課 生涯学習相談コーナー

〒747-0026
 防府市緑町1丁目9-2
 防府市文化福祉会館内1階10号
 (0835)23-3015
 (0835)38-8131
 shougai@city.hofu.yamaguchi.jp

防府市社会福祉協議会 (ボランティアセンター)

〒747-0026
 防府市緑町1丁目9-2
 防府市文化福祉会館内1階14号
 (0835)22-3907
 (0835)25-1388
 fureai-net@hofushishakyo.jp

防府市市民活動支援センター

〒747-0035
 防府市栄町1丁目5-1
 笑顔満開通り ルルサス防府2階
 (0835)38-4422
 (0835)24-7733
 shimin@hofu-saport.org

